

## 第2章

# 通級による指導に当たって

個別の指導計画は、具体的な指導内容や配慮事項を、年間あるいは学期ごとに明らかにし、指導と評価を行うものです。したがって個別の指導計画は、在籍校及び通級指導教室のそれぞれの立場で作成することになります。

	在籍校	通級指導教室
個別の教育支援計画	作成	(連携・協力)
個別の指導計画	作成 (在籍校の指導や配慮すること)	作成 (通級指導教室の指導内容)



# 1 通級指導教室での個別の指導計画を立てよう

## 通級指導教室での個別の指導計画を作成するために

通級による指導では、限られた時間数で指導の効果を上げることが求められます。通級指導教室での個別の指導計画は、指導開始前に作成しておくようにしましょう。

4月に在籍学級担任が代わると、新担任が児童生徒の学校生活や学習状況などを把握するまでに時間が掛かります。可能な場合は前年度末に、在籍学級担任から、本人の生活や学習状況、指導の経過、願いなどを聞き取っておくようにします。

その際、生育歴など、個別の教育支援計画などで確認できることについては、毎年同じことを尋ねることのないように配慮しましょう。なお、個人情報の扱いには十分留意します。

指導の現状や在籍学級での指導上配慮してほしい事項などを伝えたり、在籍学級での様子や生活上の課題を在籍学級担任から聞き取ったりするなどの情報交換により、双方の共通理解を図ります。その際は在籍学級担任などが作成した個別の教育支援計画や個別の指導計画を有効に活用することが大切です。通級による指導を受けている児童生徒の個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用が義務付けられました

(小中学校学習指導要領解説総則編H29告示)。作成する在籍学級担任、通級指導担当、特別支援教育コーディネーターとが十分に連携し、保護者の同意を得て、作成したり見直したりして、改善を図っていくことが求められます。

※下図は在籍学級担任が作成する個別の指導計画の様式(参考)です。

(Aタイプ)

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面		
生活面		
対人関係		

( ) 学期の取り組み		
指導計画		指導結果
学習面・生活面・社会性・対人関係	受容と課題	
具体的手立て	手立てについての評価	
評価の観点	来学期の方向	

(Bタイプ)

平成 年度																									
対象児童生徒(名前)	年 組	記載日	年 月 日～ 年 月 日	記録者(全氏)																					
教科全体	国語			教科全体	手立てへの評価																				
						算数数学			算数数学																
											他の教科			他の教科											
																生活行動面			生活行動面						
																					家庭			家庭	

文部科学省 小中学校におけるLD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドラインから引用

「個別の指導計画」は、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じてきめ細やかな指導を行うために、個々の実態に応じて具体的な指導目標、指導内容、指導方法等を記載した指導計画です。この指導計画は、在籍校（学級）及び通級指導教室のそれぞれの立場で作成します。評価については、学期ごとに行う、前期・後期で行うなど指導期間・評価時期を決めて行います。

## 個別の指導計画作成の流れ

### 実態把握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心  
つまづきや困難さ  
保護者、本人のニーズ等

収集した情報を自立活動の六区分に即して整理する（P. 66 参照）。

### 指導目標の設定

長期目標（年間）  
短期目標（学期など）

いくつかの課題を抽出し、中心的な課題を導き出し、指導目標を設定する。

### 具体的な指導内容の設定

育てる力の明確化

指導目標を達成するためには、「こんな力を育てる必要がある。だから、こんな指導が必要である」など根拠をもった指導内容とする。

### 指導の展開 指導記録

長期的な評価につなげるため、表れを記録しておく。

### 評価

指導目標の評価  
指導の評価

児童生徒の発達や成長に合わせて指導目標や指導内容の改善を図っていく。

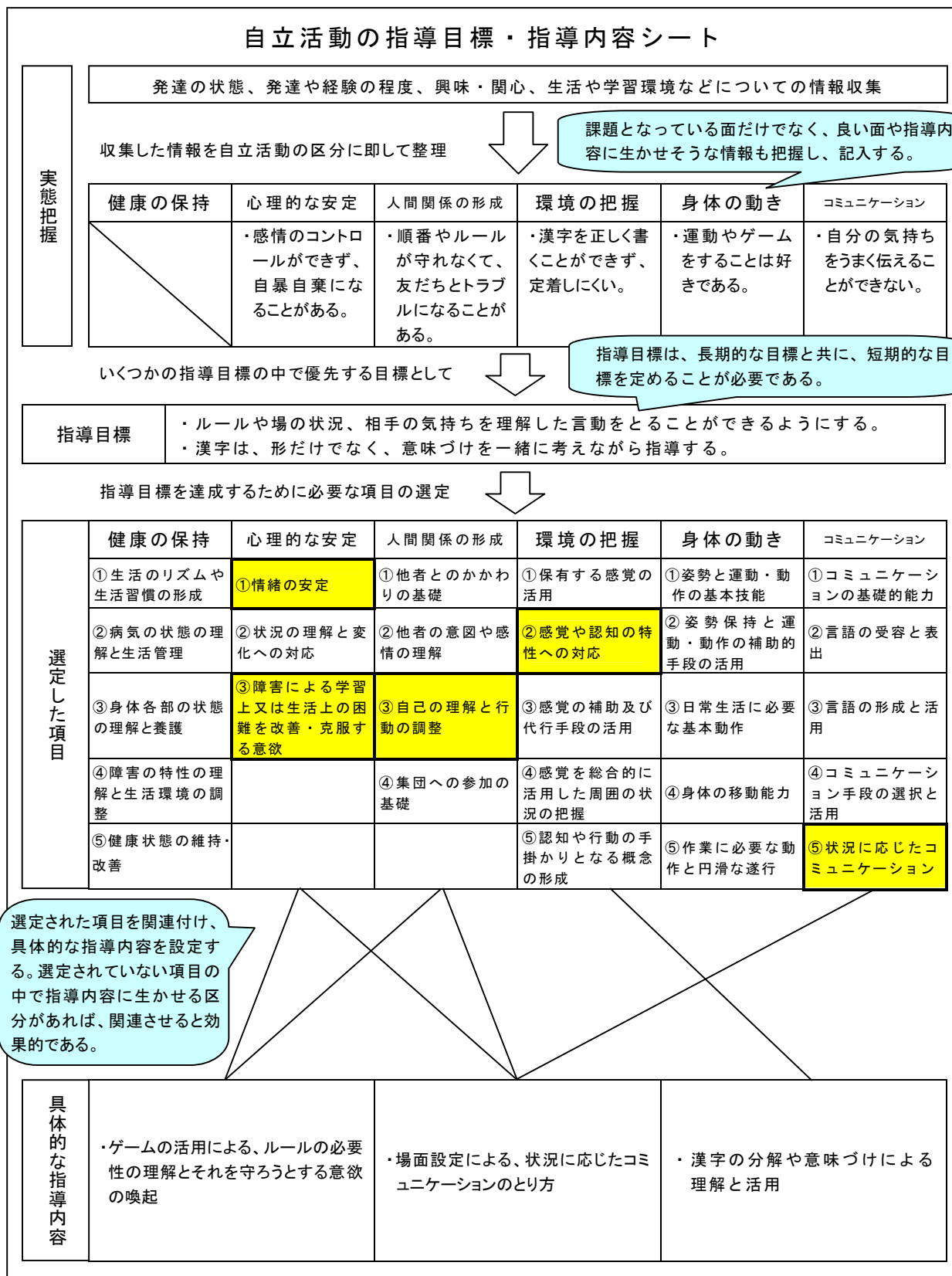
## 個別の指導計画の作成

通級指導教室では、どのような指導をすればよいのでしょうか？具体的にどのような教材を使って授業を組み立てていくのでしょうか？

ここでは実際に、自立活動の目標や指導区分を参考にして、児童生徒の中心課題を見だし、具体的な指導目標を立案していく一つの例を示します。第4章「自立活動」も参考にしてください。指導目標や具体的な指導内容が決まったら、個別の指導計画に反映させていきます。

更に、目標を達成するための年間計画を立て、個々の状況や状態に応じて実施し、評価を行います。最初から児童生徒の実態に即した自立活動の目標や内容を決定するのは難しいです。あくまでも仮説という理解のもと、修正しながら指導していきます。

出典（香川県教育委員会「個別の指導計画作成と活用の手引き」から）



## 2 実態把握をしよう

実態把握は、指導を行っていくに当たって、とても重要です。児童生徒に会う前に、個別の教育支援計画や個別の指導計画、引継資料の指導記録、心理検査の結果などに目を通したり、保護者や在籍学級担任の話を聞いたりして、児童生徒について理解しておきましょう。

### 児童生徒に初めて会う日

年度始めに在籍学校（学級）を見に行きましょう。授業の様子や在籍学級担任、友達との関わり、周囲の児童生徒の様子などを観察し、感じたことを記録しておきましょう。

〈観察の視点（例）〉

学力、行動、運動、生活など

※ 第5章 巻末資料書式例(5)

在籍校訪問記録用紙（P. 85 参照）

### まずは児童生徒の好きなことから

通級指導教室に初めて来たとき、児童生徒にどのような言葉を掛けますか。どのような活動をしますか。

児童生徒は、不安で動けなくなってしまうかもしれません。落ち着かず、一方的に話すかもしれません。予想もしない行動をとるかもしれません。こうした表れには、一生懸命その環境に慣れようとしている児童生徒の思いがあります。優しく見守ってください。

先生が安心できる存在になることで、その子本来の姿を見せてくれるようになります。目の前の児童生徒は、どのようなことが好きでしょうか。どのようなことが得意でしょうか。好きなことや得意なことを通して関わることで、信頼関係を築いていきましょう。

### こんなところに注意して

児童生徒との何気ない会話や児童生徒の好きな活動と一緒に取り組む中から実態を把握しましょう。

以下に、実態把握の視点を例示しますので参考にしてみてください。

〈学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」）〉

- ・聞き間違いや聞きもらしがある。
- ・指示の理解が難しい。
- ・個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。
- ・適切な速さで話すことが難しい。
- ・思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい。
- ・内容を分かりやすく伝えることが難しい。
- ・文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする。
- ・音読が遅い。
- ・文章の要点を正しく読み取ることが難しい。
- ・漢字の細かい部分を書き間違える。
- ・限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない。
- ・簡単な計算が暗算でできない。
- ・計算をするのにとっても時間が掛かる。
- ・学年相応の文章題を解くのが難しい。
- ・学年相応の量を比較することや量を表す単位を理解することが難しい。
- ・学年相応の図形をかくことが難しい。

- ・事物の因果関係を理解することが難しい。
- ・早合点や飛躍した考えをする。

#### 〈行動面（「不注意」「多動性－衝動性」）〉

- ・手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする。
- ・課題または遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。
- ・不適切な状況で、余計に走り回ったり高い所へ上ったりする。
- ・課題や活動を順序だてることが難しい。
- ・課題や活動に必要なものをなくしてしまう。

#### 〈行動面（「対人関係やこだわり等」）〉

- ・会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある。
- ・いろいろな事を話す但那時の場面や相手の感情や立場を理解しない。
- ・周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う。

※（文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」2002 から）

この他にも、ポイントとなることはあると思います。自立活動の六区分 27 項目は実態把握の観点としても活用できます。発達障害の特性と併せて、自立活動の内容を参考にしましょう。

※「第4章 自立活動 5 自立活動の指導に当たって」（P.72～）参照

## 捉えた実態を整理する

何回かの指導を通して捉えた実態について一度整理してみましょう。「通級指導教室では〇〇だけど、在籍学級ではどうだろう」「家庭ではどうかな」など、気になることについては、在籍学級担任や保護者に聞いてみましょう。

大切なことは、通級指導教室での表れだけでなく、在籍校(学級)や家庭など、様々な場面での様子から、児童生徒の実態を整理し、中心的な課題を導き出すことです。(P.21 参照)

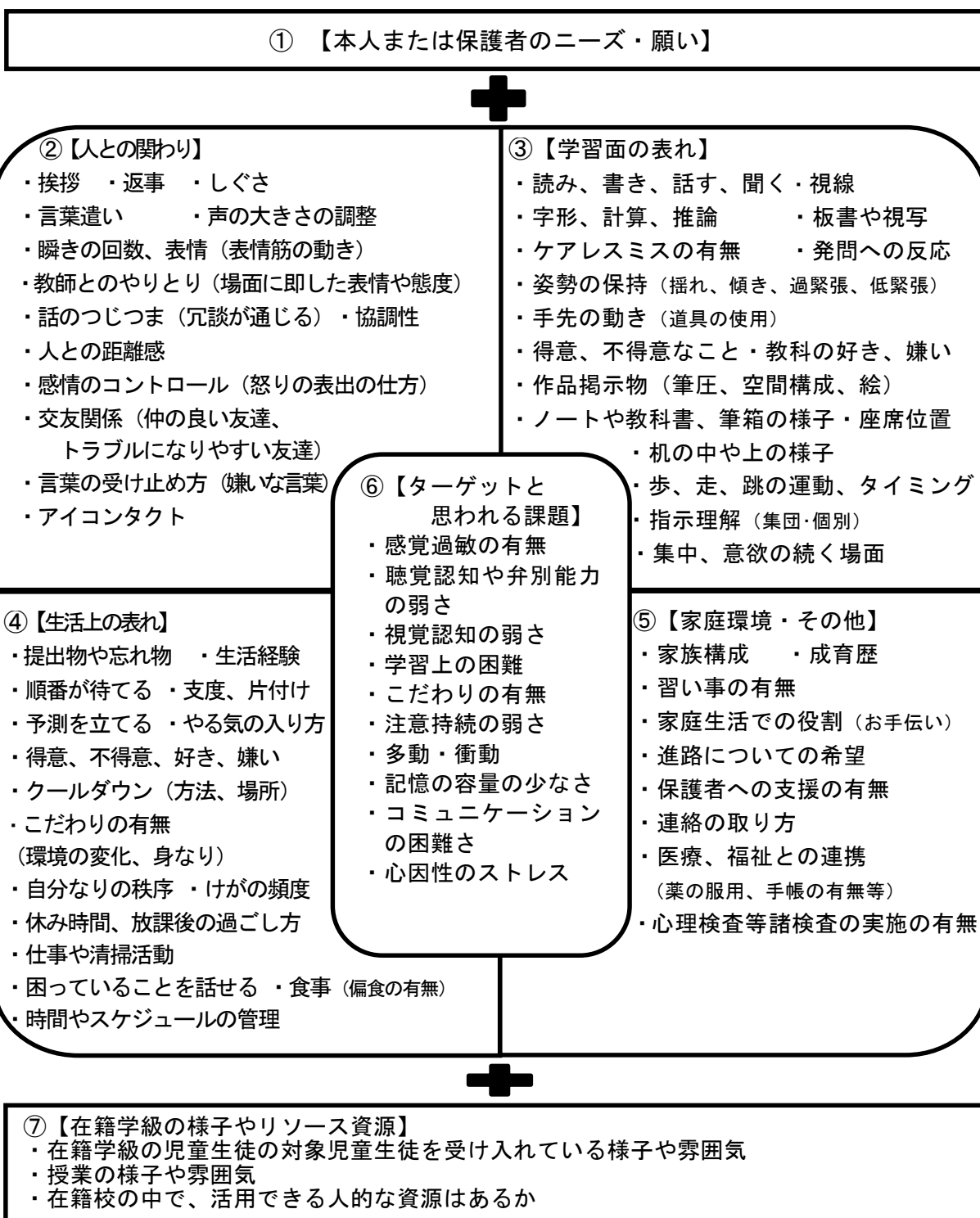
以下に実態把握の方法について例を挙げます。それぞれの学校の実状に合わせて行うとよいでしょう。

実態把握の方法（例）

行動観察	在籍学級 家庭 通級指導教室 等
聞き取り	本人 保護者 在籍学級担任 在籍校特別支援教育 コーディネーター 関係機関担当 等
指導記録	引継資料 指導の記録 個別の教育支援計画 個別の指導計画 等
心理検査	WISC K-ABC DN-CAS 等

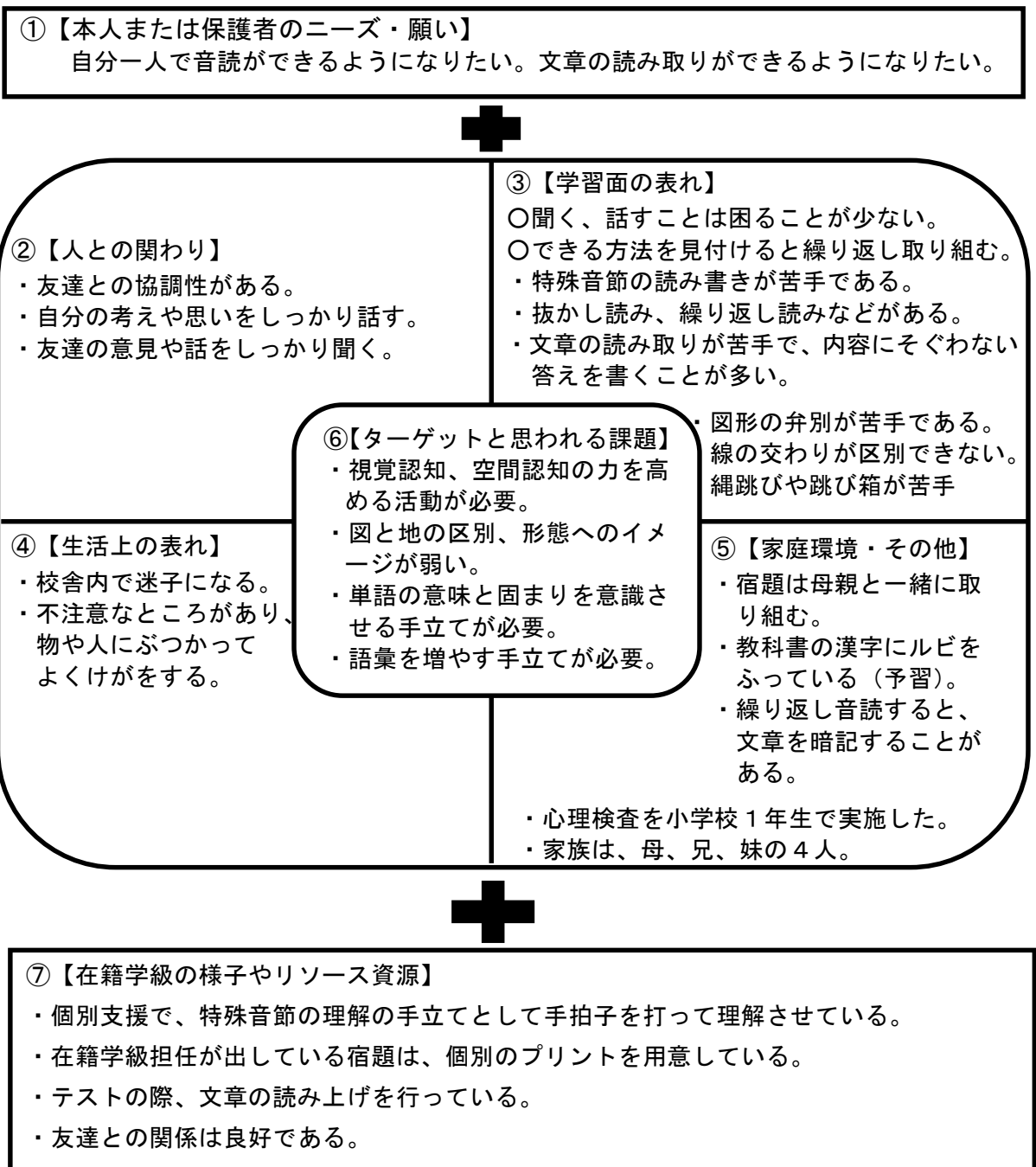
下の図は、児童生徒の実態把握を行っていくための「実態把握シート」です。児童生徒の多面的な実態把握を行うための項目を七つの視点で示しています。⑥の「ターゲットと思われる課題」を見立て、指導目標につなげていきましょう。

(糠谷考案 2017)



児童生徒をよく知る関係者と連携しながら、聞き取りや行動観察から得た情報、今までの指導記録、心理検査について記入していきましょう。児童生徒の「長所」や「困難さ」がどの項目にあるか分かりやすくなります。児童生徒の指導に生かせそうな「長所」を探ることがポイントです。ぜひ、活用してみてください。

左の「実態把握シート」を活用し、P. 40 の小学校低学年の児童の実態把握を行いました。多面的な実態把握を行い、指導目標の設定、指導内容を決定していきます。  
(糠谷考案 2017)



実態把握を行った結果、③の項目の「学習面の表れ」と④の「生活上の表れ」に、⑥の「ターゲットと思われる課題」につながる児童の実態が顕著に見られることが分かりました。⑥の「ターゲットと思われる課題」は、その後の指導目標や指導内容につながります。「ターゲットと思われる課題」を考えるときは、関係者とよく相談しながら決定していきましょう。大切なことは、児童生徒の困難さのみに注目するのではなく、「長所」を指導にどう生かせるのかを意識しながら、指導目標と指導内容を考えることです。



### 3 指導目標を設定しよう

#### 個別の指導計画（通級指導教室）例

##### 【学習】

短期目標	
①簡単な物語文の読み取りで、「事実や出来事」と「登場人物の気持ち」の違いが分かる。 (手立て：表情カードの使用)	
②振り返りで、出来事を思い出しながら自分の気持ちを入れて書くことができる。 (中集団では良いところ見つけ)	
具体的な指導の手立て	評 価
①について ・楽しみながら学習ができる教材を用意する。 ・ある日常場面について、状況や登場人物の気持ちについて考える。(SSTカードの前段階)  ②について ・書き方のパターンを示す。(振り返りカード) 「どんな時に」「どんなことがあって」「どんな気持ちだったか」  (共通) ・今の自分の心の状態に近いものを表情カードから探し、表情と言葉を一致させることで、「気持ち」に気付けるようにする。	※表情カードを使わなくても、「気持ち」に気付くことができるようになってきた。カードを自ら手に取ることが減った。 ◎様子や気持ちを表す学習では、出来事と登場人物の気持ちの違いを表情カードを使って解答できた。(表情カードは有効である)→パターンに沿った短文作りは、まだ難しい。「出来事→気持ち」の想起はできるようになってきた。「言葉(気持ち)から、ある状況を思い浮かべる」ことは、まだ難しいが、継続して学習し、さらに経験を積んでいくことで、気付いていくことができると考える。  ⇔振り返りに、自分の気持ちを「うれしそうに」と書いたことがあった。書き言葉での気持ちの表現を、次の課題にしていく。 ◎今年のためて…跳び箱や縄跳び限定だったので、1年間だから「体育」と提案すると、意図が理解でき、自分の気持ちを入れて書くことができた。 ※書き始めも、少しずつスムーズになってきている。

##### 【行動】

短期目標	
①相手(教師、サポート員、母)が「いやだよ」「やめて」と言ったことは、やめることができ、「ごめんなさい」が素直に言える。	
②ドアは、必要な時に静かに閉める。	
具体的な指導の手立て	評 価
①について ・「なぜ」そうするのか、「なぜ」ダメか、理由やどうすれば良いかをはっきりと伝える。 →叱るのではなく、毅然とした態度で接する。  ②について ・その場を捉えて、扱い方を伝える。 ・約束が守れたら(できたら)褒める。  ☆切り替えのキーワードや、代替行動を伝えて(教えて)いく。 ・できたら褒める・やろうとしたら褒める ☆経験を増やす。 ・ゲームの準備や片付け ・ルールに従って遊ぶ ・身近な用具、道具の使い方 ・中集団で友達と関わりながら過ごす 等 ※できたことは、その場で具体的に伝える。 →「〇〇できたね」「△△したね」等の言葉で自己肯定感を高める。 ※できたことに対し、「ありがとう」を伝える。 (自己有用感を高める・信頼関係を築く)	※不審者対策訓練、天皇誕生日、冬休み…興奮して入室したが、10分掛からず気持ちを切り替えることができた。 ○嫌な気持ちでいても、それをひきずらないで、通級は通級、と切り替えてスタートできるようになった。  ◎ファイリング…普段1枚ずつ穴を開けている。サポート員：「今日は中集団で友達がパンチを待ってるから、まとめて開けられる？」に、素直にまとめて開けることができた。→その次の個別ではまた1枚ずつ。「中集団の時はまとめてできたね。」と伝えると、「中集団のときはまとめてやる。」との返事が返ってきた。 →実はいろいろ分かっている。 →状況に応じて行動に表せるようになった。教師の一貫した毅然とした態度が大切である。 ※中集団での参加がとてもし上手になり、笑顔で友達と一緒に活動できた。  ※15:00からの6年生に、笑顔で「こんにちは」と言えた。 ◎通級指導教室のドアをノックしたり、閉めるときは左手を使ったりするなど、相手を意識した行動をとることができた。

## 4 具体的な指導内容を設定しよう

通級による指導は、個別指導を中心に行います。コミュニケーション能力や対人関係等について課題があり、教育上効果があると認められる場合には必要に応じて、個別指導にグループ指導を組み合わせることができます。(文部科学省「改訂版 通級による指導の手引解説とQ&A」より)

### 個別指導

落ち着いた環境の中で、児童生徒が学ぶ喜びを感じ、自己肯定感を高めながら主体的に学習に取り組むことができるように児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じて指導を行っていきます。

#### 個別指導事例 (小学校2年生)

##### 課題

人との距離感がつかめない。声量の調整が苦手。場に合った行動をとりにくい。一斉指示が通りにくい等。

##### 指導内容

- 1 挨拶、荷物の準備、手洗い・うがい
- 2 始めの会、今日の学習について
- 3 体ほぐし (トランポリン)
- 4 よく見て探そう (間違い探し)
- 5 終わりの会

1、2、5は毎時間ほぼ同じ流れで行うようにしています。見通しをもたせることで落ち着いて活動に取り組んだり、主体的に取り組んだりする姿を引き出します。

個別の指導計画に基づき、個の目標達成に必要な指導を行っていきます。各活動をどのようなねらいで行っていくのか明確にしておくことが重要です。活動ありきにならないようにしましょう。



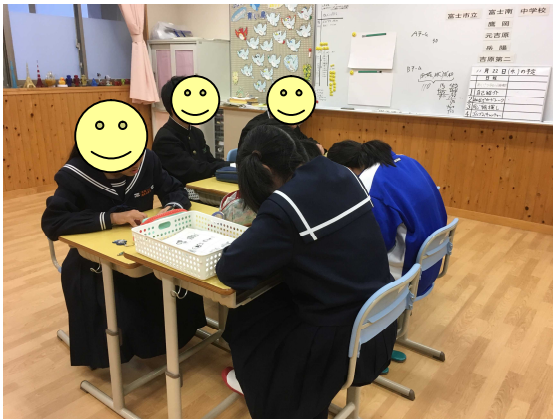
##### 指導上の配慮点

- ・落ち着いた雰囲気
- ・楽しく安心できる場
- ・子供と視線を合わせる
- ・肯定的な言葉での励まし

## グループ指導

他人と社会的な関係を形成することに困難が伴い、コミュニケーションの問題や行動上の問題、学習能力のアンバランスがある場合などは、例えば課題に対して個別指導を行い、般化場面としてグループ指導を行うことも効果的です。

### グループ指導例（中学校）



#### 授業内容

- 1 始めの会
- 2 アイスブレイキング
- 3 ○○を伝え合おう
- 4 終わりの会

友達に正しく情報を伝えることでトラブルを回避できることを理解したり、伝えるスキルを身に付けたりする。

### グループ指導例（高等学校）



#### 授業内容

- 1 前回の振り返り
- 2 自分ってどのような人？
- 3 自分の強みを生かして
- 4 自分たちで○○を企画しよう

自分と相手の感じ方や取組の違いを知り、自分の良さや自分に合ったやり方に気付く。

同級生（同年代）で伝え合う活動を意図的に設定していく中で、コミュニケーション能力や対人関係等に必要な力を身に付けることができるようにします。

個別指導と同様、グループ指導の形態であっても児童生徒が安心して活動に取り組むことができる雰囲気をつくるのが大切です。また、グループ指導の場でも個別の指導計画に基づいて評価していくことが求められます。

## 5 学習指導を評価しよう

### 記録の目的を明確にして記録を指導に活用しましょう

児童生徒の伸びを捉えていくためには、毎回の指導の様子を記録しておくことが大切です。以下の資料は、指導の記録（高機能自閉症のある小2の児童）の参考例です。

指導日時 ○○年○月○日（○曜日） 時間9:00～10:30（第○回）	
本時の目標	通級指導教室の指導の流れを覚え、気持ちを安定させて活動に取り組む。
指導内容	児童生徒の様子（記録）
1 フリートーク ・昨日の出来事を話す 2 日常会話の指導及び学習内容の確認 ・今日の気分は？ ・季節、行事の話 ・学習内容の確認 3 絵カードに合わせたポーズをとるゲーム遊び ・左手を挙げる ・右足を曲げる ・高ばいのポーズ ・両膝を押さえる ・左目を押さえる ・ジャンプする 等 4 着座指導 ・手先の巧緻性を高める工作 ・パズル ・イラストの吹き出し（うれしい場面、困った場面）に言葉を入れる	・係の仕事を褒められたとうれしそうに話した。 ・にこにこ顔の絵カードを指差し、状態を話した。 ・決まったパターンの会話とやり取りなので、安心感をもって話した。 ・「～でした」は過去の出来事のことを話すときに使うと確認したがまだ曖昧。 <u>→「これからやることと、過去の出来事は、語尾の言葉をはっきりさせることで相手に伝えるということ」を学級でも留意させたい。</u> ・前後、左右の区別がはっきりしない。 ・ルールは6～7割分かってきた。膝や肘等、身体部位の名称を混乱することがある。 ・失敗しても投げ出さずに、6課題をやり遂げた。 ・はさみで切る課題は手元をあまり見ていない。 ・好きな車のパズルは熱心に取り組む。 ・吹き出しへはまだ適切な言葉を入れられない。
〔評価〕教室のきまりや流れを覚え、落ち着いて学習できた。離席もせず、ゲームでは納得しながら自分の負けを認めることもできた。全体的に集中して取り組んだ。	
〔次回〕 ○○年○月○日（○曜日） 時間9:00～10:30（第○回）	

- ・児童生徒の様子…指導内容に対する「様子や成果、課題」
- ・「→」は在籍学級担任へ伝えた事項を表しています。

（熊本県教育委員会特別支援学級及び通級指導教室担当者のためのハンドブック 参照・加筆）

指導の記録は、児童生徒に対して行った指導の内容、成果、課題を振り返り、今後の指導に生かすためのものです。指導内容に対してどのような取組や反応をしたのか、どのような支援があればうまくいくのかといった視点をもって記録していきます。記録は、通級指導が行われている学校及び児童生徒の在籍校の双方で保管します。日常的にやり取りする「連絡ノート」よりも詳しい内容や課題を書くので、連携のツールとしても活用できます。より良い連携を図るために在籍学級担任はもちろんのこと、校長・教頭等や特別支援教育コーディネーターなどの複数で見ると良いでしょう。

次に、児童生徒の様子を記録を基に、学習指導の「評価」を行い、記入します。通級による指導では、個人内評価が基本となります。前回までの指導の評価と比較しながら、現段階の表れを評価しましょう。

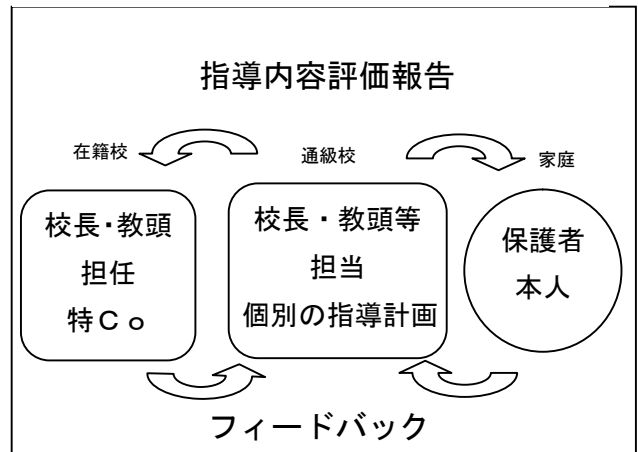
また、在籍学級担任や保護者からの聞き取りをするなど、多面的に評価していくことも重要です。

### 通級の評価報告の流れ

### 学習状況の評価の際の留意点

在籍学級担任や保護者、児童生徒と評価の共有ができるように、学習状況の評価については以下の点に留意しましょう。

- 1 個人内評価が基本である。
- 2 多面的に評価する。
- 3 肯定的な評価を心掛ける。
- 4 目標が達成されたかどうかを客観的に評価する。
- 5 目標が達成できなかった場合の評価も大切である。



個別の指導計画の評価へ  
(P. 31)

### 記録・評価の報告

通級による指導の評価は、在籍学級担任や保護者に報告(記録の送付)します。在籍学級担任は、その評価を基に在籍学級の指導・支援の改善に生かしていきます。また、保護者は、家庭での関わり方の参考として活用していくことにつながります。

評価を伝えて終わるのではなく、その後どうであったか必ずフィードバックを受けるようにすると良いでしょう。それをさらに、個別の指導計画の見直しに活用し、指導の改善につなげていくことが重要です。

#### 授業記録

日時	平成 年月 ( ) 10:30~11:30 ( ~11:45 保護者相談 )		
児童名	○○○○ (△△小4年)	○○○○ (△△小4年)	
短期目標	<学習> ①2年生で習う初歩的な漢字が書ける。 ②振り返りで、出来事を思い出しながら自分の気持ちを入れて書くことができる。(中集団ではよいところ見つけ) ③繰り上がり繰り下がりの計算がスムーズにできる。 <行動> (中長期目標) ○適切な言葉遣いで話す。 ①目を合わせて教師の話を聞き、指示を最後まで聞いて分かってから行動する。	<学習> ①課題に取り組むときには、最初から「こうだろう」「これが正解」と決めつけてしまわずに、教師の説明を最後まで聞いてから考えるという声掛けを受け入れ、心掛けることができる。 <行動> ①ひまわり教室は安心できる場だと感じ、リラックスして授業を受けられる。 ②乱暴な言葉ではなく、「難しいな」「大変だな」「1枚にしたいです」等、不安な気持ちを適切な(素直な)言葉で表現できる。 ③プラスの自己評価ができる。(がんばった、うれしかった等)	
内容	ねらい 1 基本的な生活習慣の習得 2 視覚情報の理解	主な活動 ・挨拶、入室 ・下敷き筆箱を取り出す ・かばんはロッカーへ ・うがい、手洗い	児童のあらわれなど
準備			
始めの会	1 指示行動 2 活動の見通し 3 注意集中	・日付の確認 ・予定を聞く	
トレーニングタイム	1 発声 2 眼珠運動のトレーニング	○口の体操 ○アルファベット消去トレーニング(プリント)	
ほめほめリレー	1 相手をほめたり相手の良いところを見つけたりする 2 相手意識・思いやり 3 適切な表現	○ほめる相手は「○○○○」 ・順番にほめる(2周続ける) →ホワイトボードに書く ・具体的なエピソードでほめる	
サイコロトーク	(話し手) 1 自己理解・感情の表出 2 順序立てて分かりやすく話す(聞き手) 1 相手の状況や気持ちの理解 2 内容に合った反応(相槌、返答、質問)	○サイコロを転がして、出た目に書かれているお題について話をする ・順番を決める ○トーク 「○○のことが△△です。」「○○だからです。」 ○質問タイム ・質問をする ・質問に答える	
ゲーム	1 相談する 2 活動を楽しむ	○こぶたのレンボレー ・ルールを聞く ・1度だけ自分の番の時に、1度だけチップを使って道を伸ばす ③同じマスに止まったら、後から来たブタは前のブタの上に載って進める。次の自分の番がきたら、降りて進む。 ・ゲームをする ・協力して片付ける	
終わりの会	1 自己評価 2 表現力 3 視覚、聴覚記憶	・活動の振り返り ・友達の良いところ見つけ ・発表 ・めあての評価	

## 個別の指導計画の評価

指導がある程度進んできたら、個別の指導計画に基づいて指導の効果と指導計画の評価を定期的に行うことが大切です。長期（年間）、短期（学期ごと、半期ごと）それぞれの期間の目標と指導内容について評価します。在籍学級担任にも指導を報告し、対象の児童生徒を総合的に評価する際の基礎資料の一つとなるようにします。

また、評価を基に改善点を明らかにし、指導計画の修正を図り、より良い指導ができるよう努めます。

他校通級の場合は、児童生徒の在籍校に対して、学期ごと、半期ごとの指導報告等で、指導内容や課題、今後の指導予定などについて報告します。

## 指導要録の記載

在籍学級担任は、通級による指導を受けている児童生徒の成長を総合的に捉えるため、指導要録の様式2「指導に関する記録」の総合所見及び指導上参考となる諸事項の欄には、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業数、指導期間、指導内容や成果等を記入します。

### 指導要録 様式2

#### 「指導に関する記録」の総合所見及び指導上参考となる諸事項の記載例

	～ 略 ～
第 ○ 学 年	通級指導を受けた学校名：〇〇市立△△小学校□□通級指導教室 通級による指導の授業数：週〇単位時間 指導期間： 〇年〇月〇日から△年△月△日まで 指導内容や成果等： 主に心理的安定を中心とした指導として、不安や怒りの気持ちをコントロールする仕方を学習した。自分の気持ちを数値でとらえる学習を通して、気持ちのコントロールがかなりできるようになった。周囲の状況に適した行動や言葉掛けも増え、穏やかに過ごす様子が見られるようになった。

(熊本県教育委員会 「特別支援学級及び通級による指導担当教員のためのハンドブック」  
一部参照引用)

※記載については市町での記入方法を確認してください。

## 6 在籍学級や家庭と評価を共有しよう

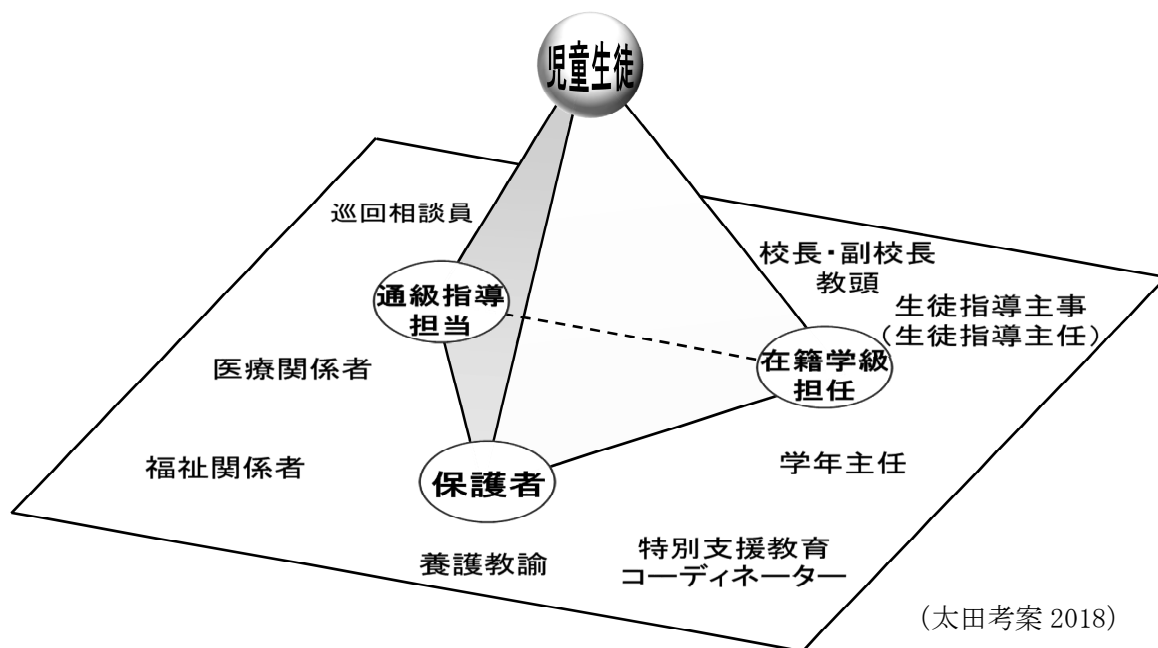
### 連携の目的

通級指導教室は、個に応じた指導の場です。児童生徒が通級による指導で身に付けた力を、通級指導教室で発揮できることはもちろんのこと、在籍学級や家庭等で生かされ、あらゆる場で般化されてこそ、本当の意味で通級による指導の目的を達成できたと言えるでしょう。

したがって、通級指導担当は、日常生活での児童生徒の様子を確かめ、それを自身の指導の修正や改善につなげていく必要があります。そのために、在籍学級担任をはじめとして、児童生徒に関わっている人たち（校長、副校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、巡回相談員、医療関係者等）と、児童生徒の良さや気になる表れなどを互いに伝え合い、情報共有することが大切です。

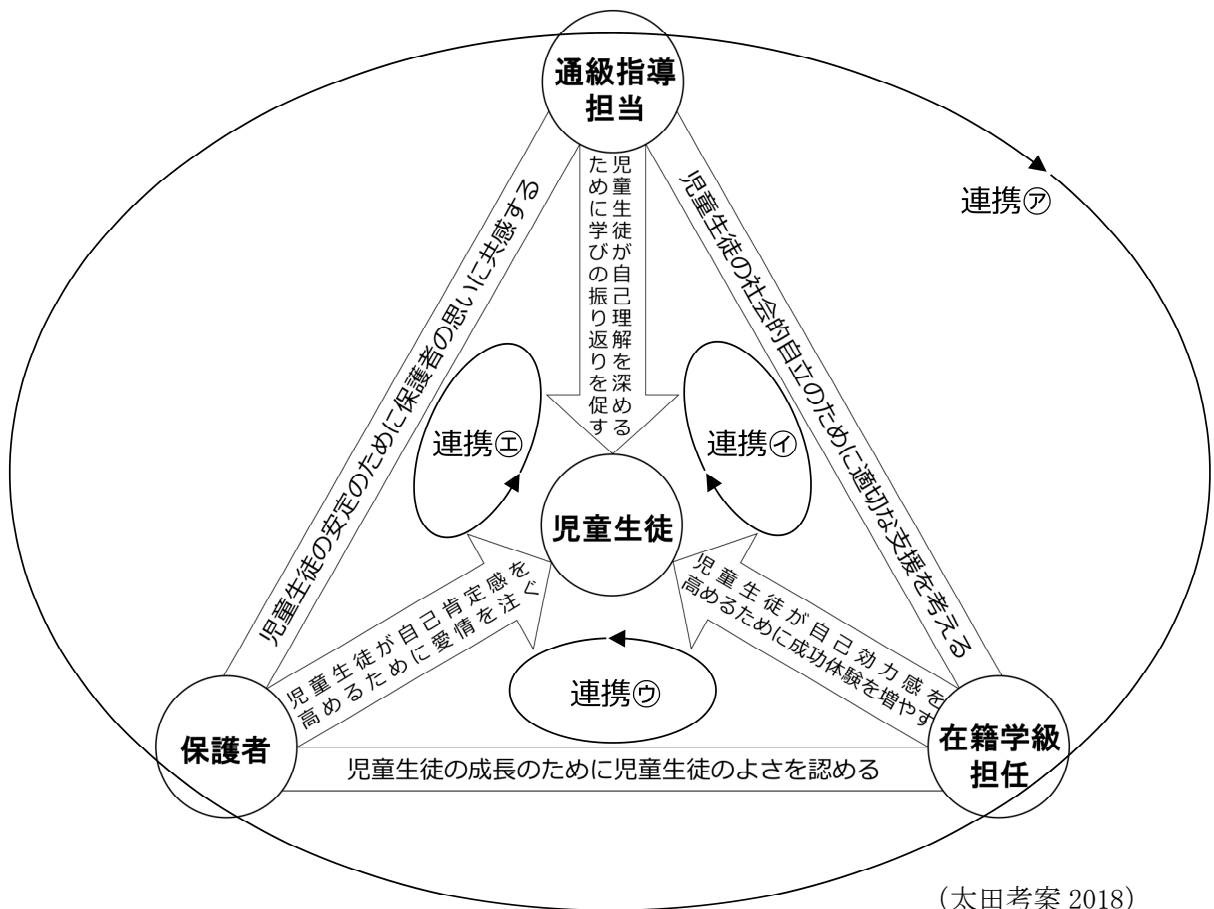
児童生徒に直接関わる機会が多いのは、在籍学級担任と保護者です。通級指導担当、在籍学級担任、保護者の三者が中心となり、児童生徒にとって居心地の良い場所を保障することが、通級による指導の効果を高める上で重要です。まずは、三者間での連携体制を構築できるように、指導後の保護者との会話、自校通級の場合は職員室での日常会話の場も生かし、どんなことでも気軽に相談し合える信頼関係を築いていきましょう。通級による指導の効果が高まると、更に児童生徒が安心して前向きな気持ちで学習をしたり生活を送ったりできるようになるでしょう。下の図は、「通級による指導の効果を高める連携体制のイメージ」です。児童生徒を三者で支えながら連携を深める関係を、正四面体で表しています。

通級による指導の効果を高める連携体制のイメージ



## 通級指導の効果をもつる連携の在り方モデル

このモデルは、前ページの正四面体を上から見た図です。通級による指導の効果を高める三者間の“つながり”や三者と児童生徒との“関わり”を示しました。「通級指導担当、在籍学級担任、保護者による連携（連携㉞）」を基盤として、「通級指導担当、在籍学級担任、児童生徒による連携（連携㉟）」「保護者、在籍学級担任、児童生徒による連携（連携㊱）」「通級指導担当、保護者、児童生徒による連携（連携㊲）」を深めていくとよいでしょう。



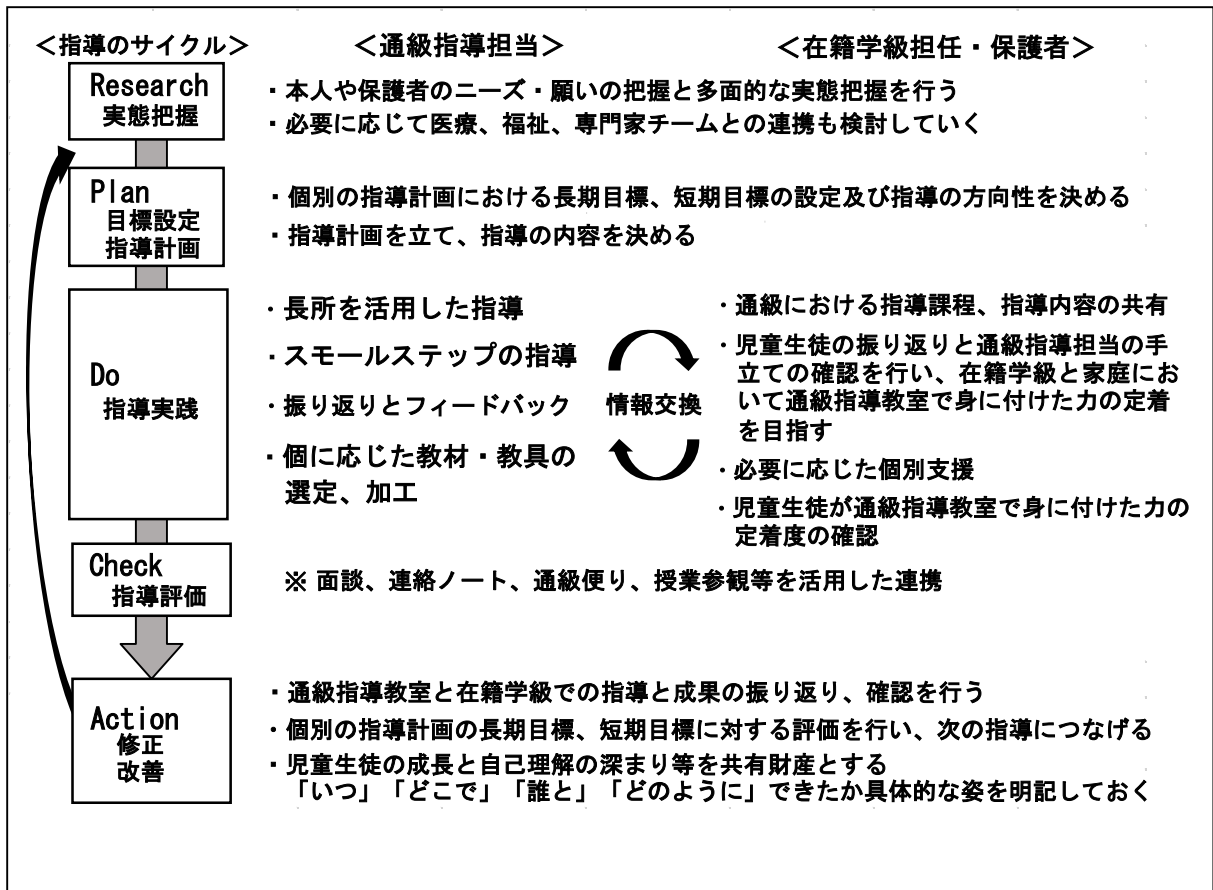
通級指導担当は、在籍学級担任と一緒に、児童生徒にとって適切な支援（学習環境、教材・教具や言葉掛けの工夫など）について考えていきます。保護者に対しては、子育てについて勇気付け、不安（悩みや心配事等）がある場合には、寄り添いながら共感していきます。そして、在籍学級担任や保護者の日頃の努力に対して敬意を払い、対等な立場で話し合うことが必要です。また、児童生徒が学びを振り返る機会をつくり、児童生徒が自己理解を深められるようにしていきます。

在籍学級担任と保護者の間では、児童生徒の良さを認めていくための情報交換が大切です。児童生徒に肯定的な言葉掛けをしたり、成功体験を積めるような配慮を行ったりすることで、児童生徒が自己肯定感や自己効力感を高められるようにしていきます。



## 通級指導教室における指導モデル（参考）

通級指導教室における指導モデルは、通級指導担当と在籍学級担任、保護者の三者で連携しながら児童生徒の指導を行うための参考となるものです。実態把握、目標設定、修正・改善の項目は、関係者間で共通理解していきましょう。



（糠谷考案 2017）

指導は、通級指導教室と在籍学級においてそれぞれ行われますが、必要に応じて面談を行う、連絡ノートや通級便りを活用する、授業参観等の機会を設けるなどして、情報交換していくようにしましょう。通級による指導では、長所活用型の指導を行う、簡単過ぎず難し過ぎないように配慮しながらスモールステップの指導を行う、活動後の振り返りとフィードバックを行う、個に付けたい力に合った教材・教具を選定し必要に応じて加工する等の手立てを行っていきましょう。大切なことは、その子一人一人に合った学習方法が身に付けられるようにし、学びの困難さを軽減させていくことです。

指導評価に当たっては、具体的な記録を基に、目標が達成できたかどうか関係者で話し合うようにしていきましょう。評価は、次の指導目標につながっていきます。

## 連携の工夫

通級指導担当は、在籍学級担任や保護者との話し合いの時間を確保することが難しくかったり、直接会う機会が少なかったりする場合があります。連絡ノートなどの工夫をしたり、年度当初に在籍学級担任や保護者と調整し、在籍校訪問や個別面談などの日時を年間計画の中に位置付けたりしておきましょう。

### ◎連絡ノート

通級による指導の様子を在籍学級担任や保護者に伝えたり、在籍学級や家庭での様子を知らせてもらったりして、その児童生徒の成長を確認し合います。

在籍学級担任や保護者には、どのような様子を知らせてほしいのかを伝えておきましょう。連絡を取り合うために「スマイルネット」という用紙を作成して活用している中学校の例を紹介します。

### 連携の実践例

通級指導担当は、指導終了後に、児童生徒の様子（意欲的に取り組めたこと等）を記入し、在籍学級担任に渡すようにします。

在籍学級担任は、通級による指導後の在籍学級での様子を記録します。

★通級指導教室に通う生徒の様子を共有するものです。質問や連絡にも活用してください。

★通級指導教室から  
前回とは違い、にやがた表情で入  
息を吐きだす。気持ちの切り替えも自然  
とできて、先週の様子よりも  
話せて。英語の授業のやり方もか  
わるみたいです。報告してくれました。進  
路の話も不安な表情がなくなり  
が、高校までの道も写真で見て  
た。楽しそうにイメージできて  
おもしろくなりました。(ほら、具体物を  
おもしろい。)

★家庭から  
10月も残り精神的には落ち込  
んでいる。お互いの心の持ちかたに結果  
は関係していません。(笑)お金の代金の事  
は驚きました。本人に聞いた所「誰か  
に知らずに隣の家に、やはりよこしを  
かきつけておいて。迷惑をかける  
けれども、よしくお願ひします。

★学校から  
今回は、おたがの表情  
で、学校に戻ってきた。高校への  
道も、気持ちも確認して、ほら、  
言葉も。電車、自転車もど  
ろ、考え、身のこなし、楽し  
様子でした。1つ、不安を減ら  
して、Sさん。◆閉ました印  
10月 日 ( ) 9:50 ~ 11:00

★ふりかえり  
今日は、高校の通学手帳に  
ついて話し合いました。いい言葉も  
聞けて、とても考えになりました。  
高校生生活でできるように  
いであ  
本時の自己評価 ( ) A・B・C

保護者が書いた「参観で感じたこと等」を記録用紙に記入し、貼ります。

児童生徒が書いた「今日の振り返り」を貼ります。

通級指導担当、児童生徒、保護者、在籍学級担任が書いたものを一枚の用紙にまとめ、記録としてファイルに綴じていき、共有を図ります。

### ◎連絡ファイル

連絡ノートと併せて、児童生徒が学習したプリントをファイルに入れて渡すことで、在籍学級担任や保護者に指導内容を知らせます。また、学習で使用した教材を渡すなどして、在籍学級での指導に生かしてもらいます。家庭でも参考にしてもらったり、意欲的に取り組んでいる様子を保護者に褒めてもらったりするようにします。そうすることで、児童生徒は自信をもって生活でき、保護者も気持ちにゆとりをもって児童生徒と向き合うことができるようになります。

### ◎個別面談

在籍学級の日程に合わせて、通級による指導の個別面談を行うと、保護者の負担が軽減できます。面談は、保護者と通級指導担当の二者で行う場合や、そこに在籍学級担任も加えた三者で行う場合などが考えられます。

在籍学級担任を通して保護者の希望を把握し、日程調整をします。在籍学級担任や保護者、通級指導担当、特別支援教育コーディネーターなど、関係者と児童生徒の指導の方向性を確認します。

### ◎通級指導教室の参観

通級による指導の参観機会を設定し、在籍学級担任や保護者に指導内容や児童生徒の様子を知ってもらいます。

### ◎在籍学校訪問及び在籍学級の参観

通級指導担当が、定期的に当該の児童生徒の在籍学級参観等を行うことは、通級における指導の目標設定や指導計画作成においても大変効果的です。また、児童生徒が通級による指導で学んだことを在籍学級で生かすことができているか確認し、指導内容の改善を行うことにもつながります。

### ◎指導後の保護者との会話

保護者の送迎がある場合は、指導終了後に指導の様子を伝える時間を設け、児童生徒の取組を保護者からも褒めてもらうよう依頼します。

### ◎保護者会（保護者学習会）の開催

通級による指導を受けている児童生徒の保護者を対象に保護者会を開催します。日頃の思いを出し合い、情報交換や保護者間の交流が深まるようにします。

## 他校の在籍学級との連携

他校において通級による指導を受ける場合の手続き、教育課程の協議等については、通級による指導を受ける児童生徒が在籍する学校の設置者が定める規定等に従い、適切に行います。

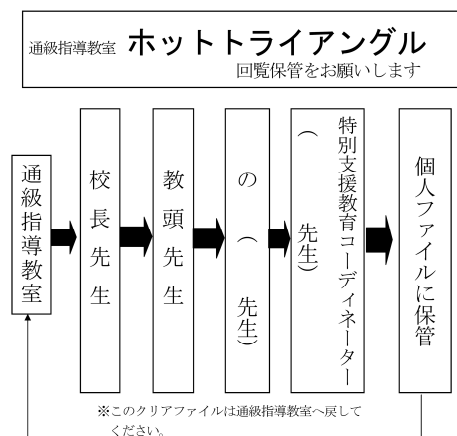
他校の児童生徒に対し通級による指導を行う学校は、当該の児童生徒を自校の児童生徒同様に責任をもって、指導することは言うまでもありません。通級による指導を行うに当たって、万が一事故等が起きた場合は状況により在籍校と通級指導校の校長・教頭等が連絡を取り合って対応します。

また、通級による指導の記録を作成し、当該の児童生徒が在籍する学校に対して指導報告書として配布します。この記録を基に在籍校と通級指導校との情報交換をするようにします。

自校通級に比べて、在籍学級担任と頻繁に連絡をとることは難しくなります。保護者を通して連絡ノート等を回覧し、情報共有が図れるようにします。効果があった指導について、取り急ぎ連絡したい場合は、電話を活用して情報を共有します。また、計画的に在籍学校訪問を行うことも必要です。在籍学校訪問には在籍学級での授業参観や連絡会・ケース会があります。必要に応じて情報交換や事例の課題検討などをします。

授業参観から児童生徒の実態把握をし、連絡会・ケース会を行う場合、在籍学級担任だけでなく、在籍校の特別支援教育コーディネーターに同席を依頼することもあります。児童生徒に対する情報共有ができ、校内での支援体制の充実につなげることができます。

在籍校と連絡を取り合いながら、授業参観や連絡会の期日を年間計画に位置付けることで、連携を円滑に進めることができます。必要に応じて、在籍学級担任が通級による指導を参観し、指導の参考にすることも可能です。互いの学校を訪問する際には、各校の校長・教頭等が窓口となって連絡を取り合った後、通級指導担当と在籍学級担任とが詳細に内容のやり取りをします。

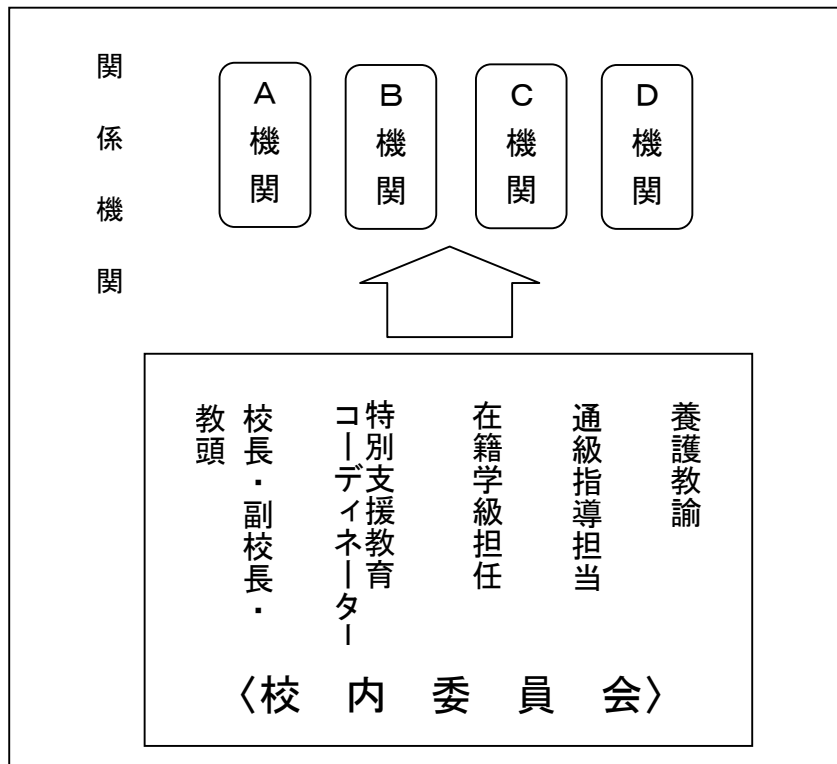


通級による指導の記録や連絡ノートをファイルに入れ、校長・教頭等や在籍学級担任、特別支援教育コーディネーターに回覧します。児童生徒の頑張りや成果を多くの関係者と共有します。

## 関係機関との連携

関係機関との連携は、児童生徒の在籍校の学校組織（校内委員会等）で定められた手順に沿って進めます。その際、下のように学校全体として連携できるようにしていきます。必要な関係機関に対して、連携内容・方法、連絡方法、連絡者などを明確にし、共通理解しておくことが必要です。資料の提供については、保護者の了解及び校長・教頭等の承認を得ることが必要です。

### 学校組織としての連携例



グループ指導の際に、お互いの良いところを交換し合った季節の掲示  
〈研究協力校掲示から〉